

脱水状態にならないよう、気をつけ。

東京感染



日本共産党北区議会議員
さがらとしこ
区政レポート
日本共産党議員団
2021.8.3. No. 1818.
お電話はお気軽に
TEL とも **3905-0970**
FAX とも
さからとしこ事務所
赤羽北3-23-17
（バス停「赤羽北3丁目」メガシティ近く）

7月31日過去最多の4058人
きのうの月曜日も2195人を記録しました。
東京都の病床使用率が44%に達するとの報道(7/25)。このままでは首都圏の医療崩壊という事態になりかねません。菅首相は「重症化率が低い」という発言をくり返していますが、現場からは「言葉は悪いが寝どを言わないでほしい」ときびしい批判が、無責任きわまりない政権です。

重要なお知らせ【予約枠追加情報】

50歳代の方限定
北区のワクチン予約 8/14(土)正午 3,500人の方に

現在、国からのワクチン供給量の関係で、予約が大変取りづらい状況となっております。ご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。

50歳代以下の年代の新型コロナウイルス感染者が急増し、50歳代の重症化率は年代別で最も多くなっています。そこで東京都は、50歳代のワクチン接種を促進するため、大規模接種会場用に確保していたワクチンを、区市町村に配分することを決定しました。北区には、約3,500人分（2回接種分）の50歳代接種用のワクチンが配分されます。

これを受け北区では、対象を50歳代に限定した予約枠を以下のとおり追加いたします。なお、年齢を限定しない予約枠の追加につきましては、ワクチン供給状況を踏まえ順次追加し、北区ホームページ等でお知らせいたします。

（ワクチン接種予約受付サイトは、上のアイコンに加えて、以下のURLからでもログインすることができます。）
（下記のURLは、上のアイコンと同じサイトに入ることができます。）

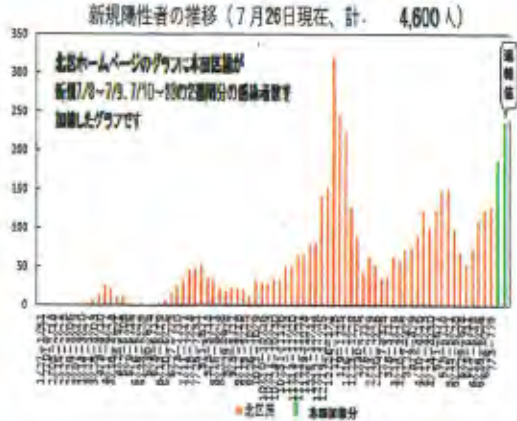
<https://vaccines.sciseed.jp/tokyo-kitaku-vaccine/login>

感染急拡大

23区病床逼迫状態

北区保健所も業務逼迫

家族や職場で誰かかかったら → 家族揃ってかかりつけ医に



新規陽性者の推移（7月26日現在、計 4,600人）

期間	土	日	月	火	水	木	金	計
7/10~7/16	21	7	16	19	33	29	38	163
7/17~7/23	23	10	37	47	53	45	16	231
7/24~7/30	42	20						

7/17~30の北区の新規陽性者293名。
入院63名、うち当日入院は3名。
入院調整中5名
（うち病院決定2名、未定3名）
自宅療養105名、宿泊療養78名。

7/26日現在、区内医療機関の新型コロナ対応病床はいずれも満床。
東京都による広域調整でも入院待機者が発生し始めています。

北区保健所から

「北区保健所における新型コロナウイルス感染症対策の体制移行について」

という区民への協力要請が出されました。業務逼迫のためです。

★入院調整★自宅療養者への支援活動★クラスター対策を優先するため

23区の病院入院は困難
受け入れ先は多摩の病院？
五輪交通規制で搬送も大変？

今も五輪中止



パンデミックと日本共産党の真価

日本共産党は、7月15日に創立から99周年を迎えました。

8月4日、志位和夫委員長がオンラインで記念講演をおこないます。午後6時から

- ◎コロナパンデミックのもとで、危機に対するそれぞれの政党の基本姿勢と対応能力が問われているのではないだろうか。「五輪より命が大切。」の主張。
- ◎日本共産党の名前に込められた、たたかひの歴史。世界の人々との連帯は、ソ連や中国など大国の干渉にひるむことなく、米国の核抑止論にも国際世論の本流に働きかけ、今、核兵器禁止条約の発効へと大きなうねりとなっています。

どうぞ、オンラインで、ごらん下さい。

また、「手ながの会」8月例会として、「DVDと見る会」もあります。コロナ感染防止対策もおこなって、

- 8/8⑧ 桐ヶ丘団地内の西地区第1集会所
- 8/9⑨ 桐ヶ丘東地区集会所 (城北信用金庫のウラです)

両日も、午前10時~11時すぎ

▶参加希望の方は、ご連絡を。

090-3570-3369 (細川)

オンライン中継は、8月4日(水)午後6時から開始。日本共産党ユーチューブチャンネルから視聴できます。QRコードからアクセスしてください。また、全国各地で用意する中継会場でも視聴できます。最寄りの共産党事務所にお問い合わせください。



記念講演会QRコード

都営募集 一般募集とポイント募集
8/2(月)~8/16(水)迄
さがら事務所にご相談を(3905)0970

ワクチン供給不足 はしご外され自治体悲鳴

「しんぶん赤旗」2021.7.26付より

「国は中長期的計画示せ」 松下武蔵野市長

新型コロナウイルスのワクチン供給不足問題で、東京都世田谷区の保坂展人区長と武蔵野市の松下玲子市長が24日夜、映像プロジェクト「チューズ・ライフ・プロジェクト」のインターネット番組に生出演し、自治体現場の実態を訴えました。

ワクチン問題では、菅義偉首相自身が先頭に立って接種加速を促しているのに7月から突然ファイザー製ワクチンの供給が激減。はしごを外された形となった自治体側が悲鳴をあげています。

松下市長は、7月中旬以降に国からのワクチン供給量が市の要求の2

「現場の声を聞くべきだ」 保坂世田谷区長

保坂区長は、自治体側は計画的な接種を進めようと、まずは高齢者、次に基礎疾患のある人と順番に接種券を送ってきたが、自衛隊の大規模接種会場が対象を18歳にまで引き下げたときに各自治体に接種券を求める声が殺到したと指摘。そこで券を配ったが、供給不足もあり予約ができないと、その声が大きくなっていると説明しました。

さらに職域接種等が想定外に広がるなどし、基礎疾患をもつ親より子の大学生が先に接種を済ます逆転現象が起きたり、

介護や保育に携わる人の優先接種の計画もかき回されたと振り返りました。

自治体には4000万回分の在庫がある」といって、保坂区長は「あまりにも現場を知らない。どこにも使うあてのない余剰ワクチンはない」と指摘。政府のワクチン関連システムについても「現場の言うことを全く聞かない癖が抜けていない。自治体の現場に来て1時間でも会議をすれば防げた失敗がある」と批判しました。

最近、公明党の宣伝車が来たが、ワクチンにも五輪にも一言もふれず、走っていった。